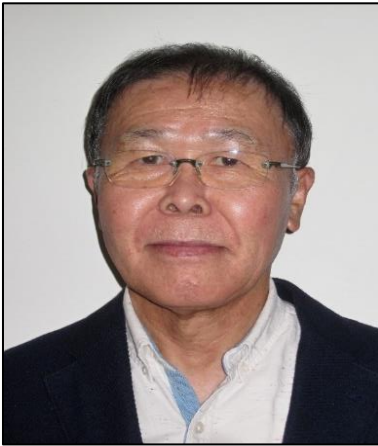


生き活きだより

東海旅客鉄道労働組合退職者連絡会（JR東海ユニオンOB会）発行責任者 久保田泰司

退職者連絡会会長就任にあたってのご挨拶



JR東海ユニオンOB会
会長 久保田 泰司

8月23日(水)に開催された「JR東海ユニオン退職者連絡会第16回定期総会」において前任の坂間会長から任を引き継ぎました静岡地区本部の久保田泰司(クボタ タイジ)と申します。これまでの長かったコロナトンネルの出口がようやく見え始め今年の5月には感染法上の分類が変更され、これまでの行動制限は解除されて徐々に社会生活も元に戻りつつあります。ただ、現在の状況は決して楽観視できるレベルでないことは、最近の感染状況を見れば明らかな通りです。特に重症化リスクの高い私たち高齢者は引き続きの感染防止対策が求められています。

今、私たちOB会に課せられた課題は大きく二つあります。

①「会員の減少とOB会組織の高齢化」に伴う取り組み、という課題です。

皆様もご存知のように、JR東海発足の前後9年間、一部を除き新規採用者がありませんでした。その結果、現在以降長期に亘り新会員加入が見込めないという現実があります。その間、OB会事態の高齢化は避けられませんが「誰もが参加出来るOB会活動をどのように作っていくのか」は、本部と各地区本部が一体となって取り組んでいきます。

② OB会のメインスローガンである「高齢者が安心して暮らせる社会をめざそう」に向けた政治的課題に向けた取り組みです。

今、日本は65歳以上の高齢者が人口の30%弱を占め、「超高齢化社会」と言われています。高齢者がいつまでも元気で社会貢献できることは素晴らしい事だと思いますが、政府は、「社会保障制度の財政不足」「現役世代の減少に伴う労働力不足」等を掲げ、「全世代型社会保障制度」又「異次元の少子化対策」として「社会保険料の上乗せと社会保障の歳出削減」の二つを軸とした財源確保を目指しています。

高齢者の抱える年金、医療、介護、税負担等課題は益々厳しさを増していると言えます。

それら、高齢者が直面する政治的課題を少しでも改善させるためには民主的な選挙によって私たちの声を政治の場に届ける事が必要です。

6月の通常国会終盤には一時「衆議院の解散」が取りざたされました。その「風」は一旦は止んではいますが、早ければこの秋にも「解散総選挙」が想定されています。

私たちOB会は、JR東海ユニオンの推薦する全候補者に高齢者の声を乗せ全員の当選を目指します。

会員の皆さまのご健勝を願いつつ、活動へのご理解、ご協力をお願い致します。

「JR 東海ユニオン退職者連絡会」

第16回定期総会開催される



2023年8月23日（水）、10時からJR東海ユニオン名古屋本部において、「第16回定期総会」が開催されました。定期総会は、2年に一度開催され、過去2年間の経過報告、決算報告、活動方針（案）、予算（案）、役員を選出等が審議されました。

梅村副会長の開会の挨拶で始まり、議長には、静岡地区本部から、代議員番号12番の鈴木啓司氏を選出して議事進

行されました。

来賓には、JR 連合退職者連絡会から高野富夫会長、JR 東海ユニオン中央本部の尾内裕昭委員長、JR 東海ユニオン名古屋地方本部の小木曾文亮委員長、こくみん共済coop事業推進部事業推進課の稲本敦課長にご参加いただき、高野会長、尾内委員長、稲本課長から、それぞれ激励、連帯、祝辞のお言葉をいただきました。定期総会議事は、鈴木議長が第1号議案「2021年、2022年度経過報告」、第2号議案「2021年、2022年度決算報告、会計監査報告」、第3号議案「2021年、2022年度決算報告（処分案）」、第4号議案「2023年、2024年度活動方針（案）」、第5号議案「財政基盤強化基金剰余金の一般会計への振り替えについて（案）」、第6号議案「会則の変更（案）」、第7号議案「2023年、2024年度予算（案）」、第8号議案「役員を選出」について、議事進行しました。

松葉事務長から、第1号議案から第3号議案までの報告、第4号から第7号までの議案の提示があり、最後一括審議の上、第1号議案から第7号議案まで、全会一致で了承されました。

第8号議案の本部役員は、下記の通り選出されました。

会 長：久保田 泰司(静岡)

副会長：梅村 佐斗示(関西)、森島 靖:(名古屋)

事務長：松葉 孝三(関東)

会計監査：家木 晃(三重)、大前 廣司(飯田)

幹 事：大沼 治雄(関東)、山下 隆三(静岡)、日比野 一哉(名古屋)

佐々木 時男(飯田)、山口 利夫(三重)、新田 豊幸(関西)

ご挨拶

皆さま、初めまして。先の第32回定期大会にて中央執行副委員長にご信任いただきました、福森 敬和（ふくもり ひろかず）と申します。出身は、名古屋地本・三重支部・伊勢地区分会です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、平成3年に高校を卒業しJR東海に入社いたしました。以降、諸先輩方の温かいお導きにより、国鉄改革以来続いておりました労政課題につきましても恙なく乗り越えることができました。その後、私も新生JR東海ユニオンの青年・女性委員会に加えていただきました。当時を振り返りますと、新米ユース役員の私に諸先輩方より、まさに「箸の上げ下げ」から労働運動のみならず会社員として、社会人として、様々な所作をご教示いただき育てていただきましたことに想いを巡らし、改めて感謝の念でいっぱいです。



JR東海ユニオン
中央執行副委員長
福森 敬和

ユース役員、分会役員、地本役員の任をそれぞれ託していただき、平成19年に旧三重地本より選出され中央執行委員にご信任を戴きました。これまでに中央本部12年、名古屋地方本部4年の経験を経て、この度中央本部に再び着任いたしました。

私は、これまでの本部経験の中で「交渉」や「情宣」、「総務」などの運動を歴任して参りましたが、退職者の先輩方のお手伝いの一翼を担わせていただくのは初めてでありまして、これまで大変お世話になって参りました諸先輩方に失礼が無いようにと緊張しております。これまでの経験上、お役に立てることやお手伝いできることも多々あるかと存じますので、何なりとお申し付けいただき、多方面にて引き立てのほど、よろしくお願いいたします。

さて、この3年半余りの社会変容のなかでご多分に漏れず、退職者連絡会の活動も以前のような活況を得られず、大変苦慮されたことと思います。油断は成りませんが、漸く世の中が平穏に戻りつつあります。様々な活動が再開できる状況に落ち着いてきた「復活期」に私も退職者連絡会の活動に参画させていただくことに「心躍る」気持ちです。私はご挨拶などの機会に常々「みんなで協力して活動して行くことで、禍転じて、きっと福と為して見せよう！」と組合員の皆さんに呼びかけて参りました。いよいよ「福来たる」時機到来であります。退職者連絡会の皆さまの活発な活動で現職世代も元気を戴き、この多様な時代を「心一つ」に共に歩んで参れますよう微力ではありますが努力して参ります。

皆さまの益々のご健勝を心より祈念申し上げますとともに、現職世代への変わらぬご指導と活動への幅広いご参画をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



つぶやき

JR 東海ユニオン OB 会 榎本 碩哉

ほんものとしもの

第五代国鉄総裁になった石田禮助氏は初めて国会で「粗にして野だが卑ではないつもり、丁寧な言葉は生まれつき出来ない、無理に使うとマンキー（山猿）が袴（かみしも）をきたようなことになる、無礼なことがあればお許し願いたい」と自己紹介。

前段の「粗にして野」は自己認識、後段の「卑ではない」は石田禮助氏の心意気だと「石田禮助の生涯」の著書、城山三郎が書いています。また在任中、国からの勲一等叙勲の話を「俺はマンキー（山猿）だよ、山猿が勲章を下げた姿みられるか」と断り没後も勲一等叙勲の申し出をつゆ未亡人が頑として受けなかった。

仕事の方も、現状の過密ダイヤの問題を衆議院予算委員会で「事故が起これば大事故になる要因が潜在している」と田中角栄大蔵大臣に迫り、総裁として一步も引かなかった。妥協のない見事な本物です。

我々は現役を退き終（つい）の棲家に錨を下ろし、地域社会の一員として老後の「健康」・「仲間づくり」そしてささやかな「社会貢献」を意図して種々のサークルへの参加を考えます。例えば、老人会や囲碁クラブ、グランドゴルフなどの同好会です。この小さな組織体でも時には不協和音やトラブルが生ずるものです。なかでも老人会は一つの趣味で集うものではなく健康・仲間づくりなど幅広い活動で市からの補助金として公金も財源となるので慎重な管理が求められます。任意団体とはいえ、組織の最高の議決機関である「総会」の在り方が最も重要な位置を占めます。ところが善良なる会員と善意に満ちた執行役員との認識のもと総会が軽視され、役員による事後報告会に変質するケースがあります。実際は執行役員の主導によるものですが総会の僅か数十分に満たない時間、執行役員と議決権を有する会員がお互いの法の支配を意識して厳粛に議事を進め、規律ある一年間とすべきです。そして残る364日はお互いに助け合い、尊敬し、談笑して仲間づくりに努めるべきです。

英国の歴史学者アーノルド・トインビー（1975年没）の一文が記憶に残っています。「外敵の突然の侵入によって民族が滅亡することは例として存在しない。我々は常に自らの内なる虚（うつろ）なものによって裏切られる。他者によって裏切られるものではない。」と述べています。小さな組織であっても、善良・善意の名のもとに、ことの本質・原理原則を逸脱し曖昧なもの虚（うつろ）なるもの、似て非なるものに変質させては、いずれ会の衰退につながります。

また、次の事例も考える材料となります。

あるグランドゴルフ同好会は学校校庭で毎週プレイを楽しんでいましたが学校の都合で中止、代わりに市の公園で土曜日午後の使用の許可を得て再開となりました。しばらくして、季節も春めくと大勢の子供たちと父兄が利用するようになり、公園の中央を独占するグランドゴルフ同好会に、子供達の父兄から土・日の休日は開放をとの苦情が頻繁となりました。

同行会会長は、市からの「使用許可」を盾として平身低頭理解を求め続けたのです。父兄たちはその平身低頭に負けてその場を離れたにすぎず、小・中・高の12年間ストレスの

たまる学業という仕事、せめて土・日の開放をとの父兄の願いです。問題を察知した会員から土曜日の不参加者が出ました。父兄たちは子供への「思いやり」つまり法律を超えた倫理・道徳等の社会規範に訴えているのです。同好会の人達の品格を問うているのです。

結局、市からの大幅なプレーの縮小を要請される結果となりました。集団のリーダーとしての判断が問われる事例です。会長のひたすらゲームを維持する責任感と堅持しているであろう社会規範との葛藤、リーダーの判断は大変です。しかし、大事なことは他の人を思いやる「仁」の心、自己の利欲にとらわれず、なすべきことをする「義」の心を確固たる信念として優先し、強く導くリーダーであるべきと考えます。

「粗にして野だが卑ではない」たいへん重い本物の言葉です。

近 思 事

あなた、どう思いますか・・・

J R 東海ユニオン 0B 会 名古屋地区本部 榎本 碩哉

時代背景として自分の考え、自分が結果責任をとる「個」の確立が成熟してよい意味の個人主義が浸透してきました。新型コロナのまん延で人としての絆の断絶が顕著となり、生活環境が大きく変わりました。家庭の形態も夫婦別姓・双方が職業人の時代です。

地域の様々な町の祭りも影をひそめ「ふれあい広場」が無くなりました。昼間の近隣の接点も希薄の傾向です。「個」の確立と「断絶」、衰退する地域の人々の絆をどう立て直すか、暖かい住みよいまちづくりをどうすべきか大きな課題です。

昨今、年越しの風物詩「除夜の鐘」がうるさいと中止したり、昼間に変更する寺院が出る始末。檀家(だんか)の減少で人手不足でもあり、深夜の鐘突きを見直す動きも。人間の百八の煩惱を払う大晦日の鐘の音、この風情も消滅するのでしょうか。

昨年11月、読売新聞社の全国調査では、保育施設に関して周辺住民から苦情を受けたことがある自治体は109に上り、実に7割以上を占める結果となり、開園の中止や延期は16件に至ったという。苦情の内容は、子どもたちの声やピアノの音が騒音とのこと。

長野市では近隣住民の苦情がきっかけで公園が閉鎖に追い込まれるなど、子どもの声を巡るトラブルは後を絶ちません。近くの心ある会社社長(77)は、「園児の声がうるさい・・・？むしろ癒やされるよ」。マンション住民からは「近くの幹線道路を走る車の方が騒々しい」との声もあり、少々は救われる。もはや除夜の鐘さえ騒音とのクレームが出る日本になってしまいました。盆踊りも騒音と言われても仕方がないかもしれません。そこには日本人としての情緒ゆたかな心をどこかに忘れてきてしまったという気がしてなりません。地域の人たちとの交流・談笑が何よりも必要なのです。

'95年におこった阪神・淡路大震災は、公共サービス(ガス・水道・電気)が途絶えたときの「ひとり生きる」ことの脆さを痛感しました。結局、あのとき役に立ったのは、外部から駆けつけた市民ボランティアの支えであり、近隣同士の見守り合いや情報交換など地域住民の絆のより強いところが「ひとり生活」の多い都市部より、災害被害が少なく、その後の復旧も早かったことはよく知られています。

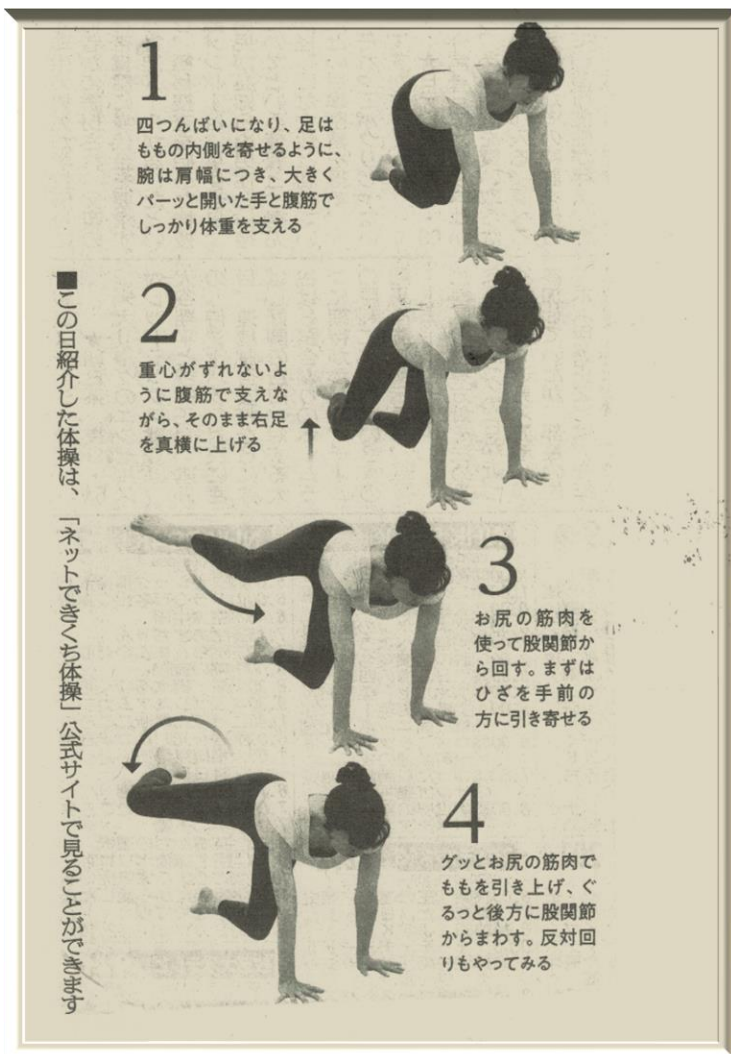
大きく変わる時代の流れに身をおく我々、「個人主義」や突然の「コロナ禍」そして社会全体の予期できない変革に対応しながら、日本の優れた文化や伝統を伝承していくことが、若いも若きも一人ひとりが熟考するときです。

昭和の時代は温かかった・・・寂しすぎないか。

“健康だより”

J R東海ユニオンOB会
本部事務長 松葉孝三

参考:「朝日新聞 2023. 5. 24 埼玉地域総合版(いっしょにきくち体操 菊池和子氏:著)」



体を支えているお尻は、重要な役割を持っています。お尻の筋肉は、全身を支える体の要です。階段を上がる、歩く時も体はお尻で支えられているので、筋肉が衰えないよう意識して動かし続けることが大切です。きくち体操代表の菊池和子さん(89)は、「日頃からお尻を寄せ、ギュッと力を入れて背筋を伸ばす。これだけでもお尻の筋肉を弱らせずに年を重ねていくことが出来ます。年を取ると、お尻の筋肉が弱り、力を入れられなくなる人が多くなります。すると、自然に腰を曲げて体を支えるようになってしまいます。日頃からもっとお尻の筋肉に意識を向けて、動かすことが大事です」と、言います。それでは、お尻の筋肉を育てる運動をやってみましょう。(1)四つんばいになり、足はももの内側を寄せるように、腕は肩幅につき、大きくパーッと開いた手と腹筋で、しっかり体重を支える。(写真1)(2)重心がずれないように腹筋で支えながら、そのまま右足を真横に上げていくイメージで動かすと、股関節からしっかり動かせます。(写真②)(3)お尻の筋肉を使って股関節から回してみる。まず

は、ひざを手前の方に引き寄せます。(写真3)(4)そこからグッとお尻の筋肉でももを引き上げ、ぐるっと後方に股関節からまわす。(写真4)十分に使えたと感じられたら、反対の足も同じように動かす。股関節と骨盤は、お尻の筋肉に支えられています。

筋肉を育て、維持することは、骨粗鬆症こつそそうしょうになることを防ぐことにもつながっていきます。

3年ぶり名古屋地区交流会開催！

リニア新幹線の今後の展望 等の講演



コロナウイルス感染にて3年ぶりの交流会開催です。8月12日、OB会名古屋地区交流会を瑞浪市『地域交流センターときわ』にて開催しました。当日は、夏の暑い日射しの中で役員が会場の準備と瑞浪駅での会場までの案内など汗だくだくでの対応で大変でした。

交流会では、講演でリニア中央新幹線の現状の説明を中津川リニア中央新幹線営業所から2名の社員にお招きし、スライド等で中津川近辺の主な工事の概要などの説明を受け、会員からの質問などに応じて頂きました。山岳部の

トンネル工事では、ナトムを採用（地質の変化や障害物など、地山の状況に応じて適切な施行方法を検討しながら掘削を進めていくことができる工法です。）各地でトンネルの掘削作業に着手しており、着実に工事が進められている旨の説明会でした。交流会での会食にはリニア中央新幹線の2名の方も加わっていただき、作業場の苦労話などをご紹介いただくなどビールを飲みながら参加者との交流で盛り上がりました。

今回から交流会の参加者に対しての交運共済からの旅費支給が無くなり、参加が若干者少なくなった事は残念ですが来年度も、会員相互の親睦を図るため盛大に開催をしたいと考えております。多くの会員参加者の参加をお願いします。



名古屋地区本部 副会長 北村 敏雄